

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100659		
法人名	株式会社 三協メディケア		
事業所名	グループホーム あったかいご神子田マルシェ (1Fきらり)		
所在地	〒020-0826 岩手県盛岡市神子田町6-12		
自己評価作成日	令和6年8月20日	評価結果市町村受理日	令和6年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設独自のスローガン「心和楽笑」のもと、心和やかに楽しく笑いのある生活を送れるよう職員一丸となり支援しております。中庭の畑では野菜を植え、“育てる・収穫する”を利用者様と共に楽しみ、日々の生活にメリハリを感じていただけるよう努めております。 内部研修の他、身体拘束に関する外部研修などに積極的に職員を参加させることにより職員全体の介護技術や知識の向上に努めております。 協力医療機関や各主治医、訪問看護と連携を図り、日々の体調管理・病気の早期発見に努め、緊急時や体調不良時などは24時間体制で対応しております。また、ご希望があれば看取りも行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建て2ユニット(1Fきらり 2Fしずく)のグループホームは、盛岡市の北上川沿いの閑静な住宅街にあって、開設14年目を迎える。「共に和み共に生きる」とする理念のもと、利用者も職員も笑顔で心穏やかに生活を送れるよう、利用者は日常生活の中で持てる力を発揮し、職員は利用者と共に過ごす時間を持ちながら、本人と家族の意向に沿ったケアを進めれるよう支援している。リビングホールは開放感があり快適な生活ができる空間となっている。事業所敷地内の裏には畑がありトマトや大根等を植え職員と一緒に収穫し、採れた野菜を使った食事を楽しんでいる。現在、ミャンマーからの2名の技能実習生は、利用者とスタッフに活気を与えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年9月10日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいご神子田マルシェ (1Fきり)

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人共通の理念「共に和み 共に生きる」と事業所独自のスローガン「心和楽笑」を施設内に掲示し職員の目に入るようにしている。心和やかに楽しく笑いのある生活を送れるよう努めている。また研修の際には確認・共有している。	理念を意識しながら、利用者が出来ることを一緒にに行い、利用者と職員が共に過ごす時間を大切にした支援を実践している。丁寧なケアを目指す一方で、利用者の側で過ごす時間を設け、利用者の声を聞きながら出来ることを共にに行い、その持てる力を引き出す支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており回覧から地域の情報をいただいている。また、運営推進会議には町内会副会長さんと民生委員さんが参加くださり事業所の現状報告を行い、意見・助言をいただいている。コロナ禍より地域との関りが少なくなっている。	コロナ禍で地域との係わりが希薄な時期があったが、町内会も活動を再開し、猛暑で中止になった夏祭りに代えて秋祭りへのお誘いがあり、参加することとしている。今後は、地域へのマルシェ新聞の配布や事業所の持つ専門性を活かした認知症に係る情報などを地域へ発信することを検討している。	コロナ禍が続いたため、地域との交流の機会が少なくなっているが、マルシェ新聞で事業所の近況や事業所の専門性を活かした認知症に係る情報などを発信し、地域との繋がりを強化し、避難訓練や災害時の協力を得られるよう取り組んでいくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症の方々の理解を深めているが地域住民への発信は行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を開催し事業所の現状(入所者情報・活動報告・ひやりはつとや事故報告など)を報告し、出席者から意見・要望・助言をいただき、資料や職員会議を通じて各職員と共有しサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、事業所のホールで対面で開催している。事業所からの報告を中心とせず、意見交換、情報交換の場としている。家族の参加を求めているが難しいため、封書を用いて事前に意見をいただき、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査の際など市役所に訪問したり必要時には連絡を取り合っている。また、運営推進会議には地域包括支援センターの職員に参加いただき、事業所の現状を伝え、相談・助言いただいている。	日常のやり取りは、電話やメールで行っているが、制度などの不明点については、直接訪問し話し合える関係が築かれている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム あったかいご神子田マルシェ（1Fきらり）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、3カ月に1回委員会を開催している。また、緊急やむを得ない拘束をする場合は臨時に委員会を開催し検討してからご家族の同意をいただいている。身体拘束による弊害を理解した上で早期解除に向け取り組んでいる。玄関の施錠は夜間帯のみとしている。	身体拘束廃止委員会は、全職員がメンバーとなっている。会議に参加できなかった職員は、議事録で内容を共有している。夜間にセンサーを7名の利用者が使用している。不穏状態を職員間で共有し、協力体制をとり外に出る動作をする利用者には、職員が一緒について出ている。スピーチロックについては、職員本人も気づいていない場合もあり、相互に声をかけ合いながら改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を3カ月に1回開催、年1回の虐待防止研修を行っている。外部の高齢者虐待防止研修にも参加し他職員へ伝達して虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の利用者様が成年後見制度を利用しており管理者は必要時に後見人と連絡を取り合っている。職員は権利擁護について資料配布で学ぶ機会をもっているが活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の施設見学・相談時や契約の際など不安や疑問点について伺い説明し納得したうえで利用開始できるようにしている。また、改定時には書面にて説明をし、理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際にご家族とコミュニケーションを図り、いただいた意見・要望を運営に活かしている。運営推進会議に参加を依頼しているが、ご家族の出席はいただけなかった。	ご家族からは面会時や電話をいただいた際に、意見を伺う様に心がけている。いただいた意見は、職員間で共有し改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談や毎月の職員会議の際など職員の意見・提案を聞く機会を設け、可能な限り反映へとつなげている。	年2回人事考課面談を行なっている。職員のシフト交換も柔軟に対応している。今年度は職員の意見を取り入れユーチューブが見れるテレビを購入し、レクリエーションに活用している。行事は職員がお互いにアイデアを出し合い企画している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいご神子田マルシェ (1Fきらり)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課・面談にて評価し、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。また、評価を賞与に反映している。法人内でキャリアアップ研修を行い、契約職員を正規職員に登用している。資格取得支援制度があり職員の資格取得をサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の人事考課で職員の力量を把握し、内部研修や外部研修への参加や社内キャリアアップ研修等行うことで職員の介護技術・知識の向上を図りケアの実践に活かせるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内研修で他事業所の職員と交流し悩みを相談しあっている。夏祭りなど行事の際に他事業所の職員にも参加してもらうことにより事業所同士の連携を強めサービスの質を向上させる取り組みを行っている。また、外部研修へ参加することで同業者との交流を図り情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に前任のケアマネージャーから情報提供していただき、本人との事前面談を通じて不安や要望を伺い、安心して生活できるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学・説明時から家族の困りごと、不安・要望を伺い、安心・納得をしてサービスを開始できるよう十分に会話をするよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で困っていることを良く聞き取り、他サービス利用を含め相談するよう心掛けている。入所が決まった段階で職員と話し合い支援方法を検討し、必要な支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の「できること」に着目し、無理のない範囲で役割を持っていただき職員と一緒にいる。また、感謝の気持ちを伝えることで、助け合い共に暮らしている関係を築いている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム あったかいご神子田マルシェ（1Fきらり）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用者様の生活の様子を送付し近況を共有している。面会・外出の制限は設けず感染症等に注意し対応しており、ご家族とふれあう機会を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限は設けず馴染みの人が訪れることができるよう対応しているが外出は難しい方が多く十分な支援はできていないと感じる。	毎年東京から面会に来る方やご家族と一緒にピアノ教室の教え子が面会に来ることもある。中庭の畑では夏野菜を栽培しており、利用者の大半は、経験を活かして積極的に草取りなどに参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の様々な状況を把握し、トラブルを回避できるよう座席など検討している。利用者様同士で会話したりお手伝いを一緒に行うなど関りを持てるよう職員が仲介役となって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談・支援を行えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から利用者様の思いや希望を聞き出し、職員間で共有し対応可能なものは意向に沿えるよう努めている。また、意向の把握が難しい方はご家族の意向や本人の立場になって考え検討するようにしている。	日常の会話や表情、行動から本人の思いを把握している。特に足浴や入浴介助の際は、利用者自身がリラックスできるため、食べたいもの、やりたいことを聞き、その情報を引継ぎ簿に記録して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に入居前の情報を前任のケアマネージャー、入院先の相談員から情報提供いただき、これまでのサービス利用の経過を把握している。また、利用者様本人・ご家族との会話の中からこれまでの生活について話を伺い把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・生活記録表に様子や発言を記録し、職員間の申し送りを通し現状の把握と体調に変化がないか健康管理を行っている。また、申し送りノートを活用し情報の共有を行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいご神子田マルシェ (1Fきり)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との会話の中から意向を聞き出し、各関係者と話し合い、いただいた意見・アイデアをケアプランに反映し作成している。	利用者担当が、日々の状況をモニタリングシートに記録し、その内容を基礎にケアプランを作成している。ケアプランは3ヵ月ごとの見直しとし、安定している場合には6ヵ月毎に行いそれぞれ会議録で共有している。利用者の状況に変化がある場合には随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各記録やモニタリングに実践の結果や気づきを記録し職員会議時や申し送り時に情報交換・共有を行いケアプランの見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で生まれるニーズに対して、施設としてできる範囲で柔軟な支援を行っているが、「既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化」という点ではあまり行えておらず不十分と感じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症の流行から地域との関りがほとんどなく地域資源を活用した支援は不十分と感じている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望する主治医とし、受診は原則ご家族の対応で行っている。受診が難しい方については協力医療機関による月2回の往診に切り替えていただき適切な医療が受けられるよう支援している。	入居前のかかりつけ医の受診を希望する場合は、受診の付き添いにご家族の協力を得ている。突発的な場合は職員が対応している。協力医療機関の訪問診療は月2回行われており、訪問看護とも連携し適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの医療連携体制をとっており、24時間体制で対応してもらっている。また、週1回の訪問時には情報共有し、相談・アドバイスをいただいている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいご神子田マルシェ (1Fきり)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は医療機関へ情報提供を行い、認知症状に配慮して治療していただけるよう努めている。また、退院後の生活がスムーズに送れるよう定期的に情報交換し、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期から本人・家族の意向を確認し、グループホームでできること・できないことを説明し方針を確認している。また、状態変化した際は改めて意向を伺い関係者と方針を共有し柔軟に対応できるよう取り組んでいる。	看取りに関する研修は行なっていないが、状況が変化していく過程で職員間の連携を密にして対応している。ご家族には、今後起こる状況に関し、医師、看護師や事業所からも丁寧に説明し、穏やかな看取りができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応方法についてのマニュアル・資料があり、研修等を通じて職員が理解し実践できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所が策定したBCPIについて研修や避難訓練を通じて、避難方法については概ね身についているが、地域との協力や連携については関係性や体制を築けていないと感じる。	事業所は、盛岡市のハザードマップで洪水浸水想定区域となっていることを確認している。夜間を想定した避難訓練では、階段を使って車椅子使用の利用者の移動が大変なことなどが浮き彫りになった。消防署立会の避難訓練はコロナ禍であったため行なっていない。	夜間の災害の場合は、勤務職員のみでの対応が困難なことから、運営推進会議で話し合い、地域の協力体制の構築に向けた取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心に配慮した声がけや対応を心掛けている。利用者様が気持ちよく過ごせるような支援を意識し行っている。	トイレ誘導を行う際は、ストレートに声をかけず、さりげなく誘導し誇りを損なわないよう支援している。失禁した際も羞恥心に配慮し速やかに対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で本人の思いを引き出すように働きかけている。また、自己決定しやすいように選択肢を提示し工夫している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム あったかいご神子田マルシェ（1Fきらり）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ本人の意向を尊重し、本人のペースに合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や洋服など本人やご家族の意向を取り入れ対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の際は目の前で調理したり、季節の食材や料理を提供し食事を楽しんでいただけるよう工夫している。また、日常では利用者様に盛り付けや食器拭きなど一緒に行っていたいっている。	朝食・夕食は冷食を利用し、主食と味噌汁は職員が作っている。昼食は1週間単位でメニューを決めて調理している。誕生日のメニューは本人の食べたいものを職員が考え提供している。利用者とおやつ作りをするときもあり、事業で作る場合には、季節感を意識している。今年の敬老会ではお寿司を出す予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事量を把握し提供している。様々な飲み物を提供し、必要な水分量を摂取できるよう工夫している。また、不足分はエネルギーゼリーや経口栄養剤などで補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に職員見守りのもと口腔ケアを行っている。就寝時には義歯の洗浄剤を使用し洗浄している。また、月1回の歯科往診と歯科衛生士による口腔ケア指導により口腔ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録で排泄のパターンを把握、トイレへ誘導し、できるだけトイレで排泄できるようサポートしている。リハビリパンツから布パンツに改善した方もおり、喜びを感じていただけている。	利用者のQOLを大事に、日中はリハビリパンツで過ごし毎日トイレに座る習慣を付けるよう支援している。排泄シートを活用し、利用者の排泄時間を把握した上でタイミングをみて声かけを行い誘導することで、トイレで排泄できている利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通に良い食材の提供とラジオ体操など体を動かすようにしております。また、主治医と相談し下剤等調整も行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム あったかいご神子田マルシェ（1Fきりり）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本とし、時間や曜日を決めているが拒否があった際は無理強いせず時間や日にちをずらし対応している。入浴を楽しんでいただけるよう入浴剤をしようしている。	入浴は週2回午前中としている。楽しんで入浴出来るよう入浴剤を使用している。入浴を嫌がる利用者は、時間をずらしたり、日を変えて入浴していただいている。入浴の機会を活用し、利用者と職員のコミュニケーションを深める場にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人ひとりの体調や希望に応じてソファやベットで休息・仮眠の時間を設けている。夜間帯も安心して眠れるよう環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬について正しく理解できているとは言えないが、変更があった際は情報共有し、薬の情報を確認するよう指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションや季節ごとの行事、生活の中の家事や作業を職員と一緒にすることで役割・やりがいを感じていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部の利用者様のみが散歩やドライブに出かけている。ご家族の協力のもと普段行けない場所への外出ができた方もいるが日常的にその日の希望で外出はできていない。	四季のミニドライブなどは、小グループで行なっているが、日常生活において介護度の高い利用者の外出はできにくい状況にある。その日の希望に応じた外出対応は難しいものの、面会日を活用して家族と外出する利用者も数名いる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金の持ち込みはお断りしている。希望する方には柔軟に対応しているが現状希望の声は聞かれていない。外出の際、希望があれば立替払いで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望があればやり取りができるよう支援している。ご家族からの手紙を代読することもある。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいご神子田マルシェ (1Fきらり)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔を心掛け室温・湿度にも配慮している。壁には利用者様と一緒に制作した季節を感じさせるような作品を掲示している。	共有のラウンジには空気清浄機、テレビ、3カ所のソファ、食卓用のテーブルが置かれ快適な生活環境となっている。壁には季節感を感じる作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール各所にソファやベンチ、テーブルなどが配置されておりテレビを見ながら談笑されたり、一人で過ごすこともできるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には介護用ベッド、洗面台、クローゼット、エアコンが備え付けている。入所の際は本人が使い慣れた物・馴染みのある物をお願いしているがあまり持ち込みいただけない現状である。	居室は十分な明るさで整理整頓され掃除が行き届いている。居室の入り口には、利用者の名前が貼られ自分の居室が分かるようになっている。テレビやタンスを持ち込んでいる利用者もいる。エアコンの調整は職員が行ない、心地よい環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、各所に手すりが設置されているため、手すりにつかまりトイレや居室まで歩行できるようになっている。トイレは他の部屋と区別がつくようドアの色を変え工夫している。また、居室入り口には利用者様の名前を付け認識できるようにしている。		